懇親会挨拶



東レ科学振興会　評議員
政策研究大学院大学　客員教授　　有　本　建　男

ただいまご紹介いただきました、評議員の有本でございます。

本日、東レ科学技術賞を受賞された山形俊男先生、須田年生先生、科学技術研究助成を受けられた若手研究者の皆様、そして理科教育賞を受賞された浅見拓真先生をはじめとする先生方、誠におめでとうございます。皆様のこれまでのご努力と独創的なご業績に、心より敬意を表します。

私はこれまで、文部科学省、内閣府、JST、OECD、ISC、国連など国内外の場で、実務者として、科学技術政策や研究システムの改革、政治・社会と研究現場の橋渡しに携わってまいりました。

現在、世界秩序は 100 年規模とも言われる歴史的転換期にあります。AI をはじめとする先端技術の急速な進展は、科学の方法そのものにも変化をもたらしつつあります。まさに世界は「答えのない時代」に入り、先見性と独創性が問われていると言えます。

このような不確実な時代だからこそ、普遍的な真理を探究する基礎研究の厚みこそが、社会の安定と未来を支える最も確かな基盤になると感じております。

本日受賞された山形先生の気候変動予測研究、須田先生の造血幹細胞研究は、現代社会が直面する重要な課題に対し、強固な科学的基盤を与えるものです。科学が社会に持つ深い力を象徴するご業績であると感じております。

東レ科学振興会は設立以来、こうしたトップ基礎研究を一貫して支援してこられました。ゆかりの研究者の中から 6 名のノーベル賞受賞者が生まれています。財団 HP に掲載されている分野別年代別研究者リストと 66 年に亘るヒストリーマップを見るとその歴史的貢献がよく理解できます。

また東レ財団は、ASEAN 諸国における若手研究者支援にも長年取り組んでこられました。こうした継続的な知的ネットワークの蓄積は、わが国の国益だけでなく地域益と世界益につながる重要な基盤であると感じております。

本日助成を受けられた若手研究者の皆様、そして理科教育の現場で日々努力されている先生方が育てておられる「科学の芽」が、将来大きく育ち、新たな科学のフロンティアと社会価値を生み出していくことを心より期待しております。

最後に、日本の基礎研究を長年力強く支えてこられた東レ株式会社、そして東レ科学振興会のますますのご発展を祈念いたします。

それでは乾杯に移りたいと思います。皆様、グラスをお持ちください。本日受賞された皆様の今後ますますのご活躍と、ご列席の皆様のご健勝を祈念いたしまして、ご唱和ください。乾杯！